

福祉の扉を開けてみよう

伊勢原市立大田小学校

六年 亀井 悠里

私の母は、障害者支援施設で働いているので、家で施設の事を母と話す時があります。その施設には色々な障害を持った人が一緒に生活していて、コミュニケーションが取れて少しの支援だけ必要な方もいれば、全てにおいて支援が必要な方もいます。出来る方が出来ない方を助けてあげる事もあるそうです。

私はその事を知って、障害と言っても様々で、全ての方に同じ支援をしている訳ではないとおどろきました。

私には、支援級に通っている三年生の弟がいます。弟は話していて、言葉がなかなか出てこなかったりしますが、最初の文字を言っ
てあげると、言葉を思い出して、コミュニケーションが取れるようになります。放課後や長期休かにティサービスでリョウ育を受けていて、弟に合わせた支援をしてもうっ
ていま

す。そのおかげで勉強や身の回りの事やコミ
ュニケーションが取れるようになってきまし
た。曾祖母は週に一回、デイサービスへ運動
や脳トレをするために通っています。そのお
かげで、今でも元気に生活しています。

私の周りには、福祉の助けや協力をしても
らっている人がいます。自分には関係ない事
だと思わず、まずは知る事が大切だと思いま
す。図書館の本やインターネットで障害の事
を調べたり、福祉に関わっている人の話を聞
いてみようと思います。色々な人がいる事を
知って理解する事で、もっとみんなが仲良く
助け合いながら一緒に生活できる世の中にな
ると思います。そして、私は困っている人が
いたら、助けをあげられる人になりたいです。